

パノラマ台からの眺め

43

名前どおり180°の絶景



パノラマ台は山中湖から三國峠へ至る県道の途中にあるビューポイントです。山中湖とその向こうに富士山や南アルプスの山々を望むことができ、東海自然歩道の入り口もあります。

特に秋から冬にかけて、空気の澄んだ晴れの日には、手前のスキ原の奥に、富士山、赤石岳、悪沢岳、塩見岳、農鳥岳、間ノ岳、北岳、鳳凰山を見ることができます。

また、市街地の明かりから離れたため、夜には星がとても綺麗に見ることができます。

パノラマ台の風景

村のみんなの

声

日本一の富士山、二番目の北岳、ツートップが一緒に見える場所。

望遠鏡メーカーと星空観察のイベントができるよ。

パノラマ台からの星空は絶景。

山中湖、富士山、南アルプスが望める。

白い虹の撮影ポイントのうちの一か所。

振り起こされた

宝

45 パノラマ台

● 暗い澄みきった夜空

● 冬の星空

46 東海道自然歩道

November

11月

演習場の今昔

44

村人の暮らしとともに



昭和46年の梨ヶ原の演習場

写真提供) 河内晶さ子氏

富士北麓に位置し、ススキ原の広がる北富士演習場は、山中区域の多くを占め、古くから地元の住民が野草、粗朶（細い木の枝を束ねた資材）、雑木などを採取したり、耕作をする「入会地」として利用されてきた場所です。

昭和11年に旧日本軍の演習場となつて以降、戦後は米軍に接收され、昭和48年に現在の陸上自衛隊の演習場となり、現在に至ります。

入会地は、村人の生活と密接に関わる資源を確保するための重要な場であったため、演習場の利用を巡る先人の努力や苦勞は村の一つの歴史です。また、米軍の滞在によって、弾拾いや米軍兵士のための飲食店などの仕事が発生するなど、生活にも様々な影響を与えてきました。

村のみんなの

声

ドーン!!とひびく朝7時の目覚まし時計。

米軍キャンプマックネアの兵隊のための飲み屋ができたことで、戦後の山中が賑わった。

祖父が学校卒業後、マックネアに働きに行っていた。外国文化等をここから学んだそう。

第一特科隊の号砲
全国から模擬戦の訓練にやってくる。

米軍の弾ひろいに演習場に入った。事故も多かった。

戦後GHQとともに米国海兵隊がやってきた。

毎年春、山中小の生徒が植林を行っている。

かつてはオフロードバイクでよく走った。

米軍だった当時、拾ったタマを売ってお金にしたことを覚えている。

演習場内には古墳のようなものがあり、長慶天皇の墓という説がある。

この場所は夜明けとともに山菜取りに車が列をなす。

演習場内には1707年の宝永火山でできたとされる溶岩タテ型がある。

掘り起こされた

宝

- 陸上自衛隊 梨ヶ原廠舎
- 第一特科隊FH・70の号砲
- かつての演習場
- 演習場のタマヒロイ
- 山中飛行場
- 47北富士演習場
- 米国海兵隊キャンプマックネア
- 長慶天皇の墓（と言われている）
- 溶岩タテ型
- 山中小学校（藤塚採草地）学校林

達人

高村昭秀氏

November

11月

「羽田」の由来の伝説

45

じょ ふく れい やく
徐福、霊薬を求めて長生村へ



土橋寿氏所蔵

今から約2300年前、秦（現在の中国）の始皇帝に「不老長寿」の霊薬を探してくるよう命じられた方士（士族の宗教家）徐福とその一行が、富士山麓にやってきたという伝説があります。その「秦」の徐福一行が現在の村周辺にも訪れていたことから、村には「秦」→「はた」→「羽田」という姓が多いと言われています。

村のみんなの

声

伝承された“氏”がある。

長池には不老長寿の薬があったために村人が長生きで、長生村（ながいきむら）と呼ばれていた。

徐福が長生村の話聞きつけて薬探しに長池まで来たという逸話がある。

徐福の一行がこの地に渡り、関係者が住みついた。

長池には徐福のかろうと（納骨櫃）があった場所があると言われる。

真偽は分からないが、徐福の訪れたという資料や記録に該当するようだ。

徐福のことを調べる人がこの土地を調べに来ることがある。

達人

羽田正江氏

掘り起こされた

宝

48 徐福伝説

November

11月

旭日丘の名付け親

46

蘇峰も惚れた景色



旭日丘緑地公園

徳富蘇峰は、明治から昭和にかけて活躍した熊本県出身のジャーナリスト・歴史家・思想家です。

富士北麓の開拓を進めた富士山麓鉄道（今の富士急行）の創始者であり、富士五湖一帯を観光開発した堀内良平が、昭和初期に徳富蘇峰を山中湖畔の別荘地に滞在させました。徳富蘇峰はこの別荘生活を気に入り、富士山に旭光（朝日の光）がさして雲をつらぬき、湖面に反射する様子の美しさからこの地を「旭日丘」と名付けました。

旭日丘公園には、中央に堀内良平の功績を称える碑があり、入口には徳富蘇峰による旭日丘の命名碑が設置されています。

徳富蘇峰の別荘を「双宜荘」、庭園を「双宜園」といいます。双宜荘はなくなってしまいましたが書斎は文学の森「徳富蘇峰館」に再現されています。

村のみんなの

声

旭日丘は、開発される前はススキの原っぱだった。

双宜荘の中にある書物・絵は村の宝。

ススキの原っぱに植林するなどして、現在の森の中に別荘が点在する風景となった。

「双宜」とは、富士山よし、山中湖よし、両方よしというところからきており、蘇峰が付けたと言われている。

双宜荘の跡地は旭日丘命名碑の横にある。

双宜園は、現在は富士急行グループが管理している。

双宜園は、徳富蘇峰が同志社大学に譲ったと言われている。

双宜園は、散策路が整備されており、誰でも入ることが出来る雑木林の美しい場所。

双宜荘には与謝野晶子や新島八重も訪れたことがあると言われている。

掘り起こされた

宝

● 旭日丘の由来

④ 徳富蘇峰の別荘「双宜荘」

⑤ 徳富蘇峰の庭園「双宜園」

⑥ 徳富蘇峰館

November

11月